

Zoom Up

人

ヨーロッパでは
ジャンプは人気競技で観客も多い
日本もそうなってほしいですね



感

謝の気持ちを胸に、国内のみならず世界でも活躍するスキー選手がいる。スキーができること、現在も続けられること、それは決して自分一人の力ではない。いろいろな人に助けられているからこそ、自分は競技に集中することができる。スキージャンプの選手として活躍する遠藤秀治さんの原動力は、この謙虚なまでの感謝の気持ちだ。

た。「もともと、ジャンプの方が得意だったので」という遠藤さんは、これを機にスキージャンプ一本で戦うことを決意。本格的にジャンプに取り組みようになった。

いまだにジャンプに対する恐怖心はあるという遠藤さんだが「風などの条件が悪いときは本当に怖いんですが、結果がでたときの喜びは、それ以上なんです」と笑顔を見せる。「K点を越えるような大ジャンプのときは、飛び出した瞬間から時間がゆっくり流れるんです。あの気持ち良さは、言葉にできませんね」と選手でなければ感じることもできないスキージャンプの魅力を教えてくれた。

スキー好きな父親に連れられて始めたスキー。小学校からクロスカントリリーを始め、中学校に入るとスキージャンプに取り組みようになる。このころは、ノルディック複合競技の選手として活躍していた。

大学を卒業した後は、今季限りで現役を引退した兄の悠介さんと同じ社会人チームに入り、競技を続けていく遠藤さん。目指すは、もちろんオリンピックの金メダルだ。「今まで以上にスキーに没頭できる環境になるので、寄り道せずに世界のトップを目指します。兄の果たせなかった金メダルの夢に向って、突っ走りますよ」と意気に燃える。感謝の気持ちを力に換えて、彼のジャンプは栄光へのアーチを描く。

遠藤 秀治 さん

●えんどう・しゅうじ 松尾中学校から盛岡南高校に進み、この春、日本大学を卒業。スキージャンプの選手として国内主要大会で活躍するほか、日本代表としてユニバーシアードでも結果を残す。趣味はギターとライブに行くこと。「負けず嫌いで人見知り」と自己分析する。「感謝の気持ちを忘れない」ことをモットーとする。血液型A型のかに座。野駄出身。